

伊根町立小学校再編計画についての住民説明会まとめ

【筒川地区会場】

日時	令和7年12月13日（土） 14時00分から15時00分
場所	筒川地区コミュニティセンター 和室・談話室
出席者	住民参加者 5名 報道関係 1社 伊根町教育委員会 教育長、教育次長、担当者

【朝妻地区会場】

日時	令和7年12月13日（土） 18時00分から19時05分
場所	老人福祉センター泊泉苑 大広間
出席者	住民参加者 9名 報道関係 1社 伊根町教育委員会 教育長、教育次長、担当者

【本庄地区会場】

日時	令和7年12月14日（日） 14時00分から15時20分
場所	本庄地区コミュニティセンター 大会議室
出席者	住民参加者 15名 伊根町教育委員会 教育長、教育次長、担当者

【伊根地区会場】

日時	令和7年12月14日（日） 18時00分から19時45分
場所	伊根町コミュニティセンターほっと館 ふれあいホール
出席者	住民参加者 16名 報道関係 1社 伊根町教育委員会 教育長、教育次長、担当者

1 開会 挨拶（岩佐教育長）

挨拶の要旨は、下記のとおりです。

説明会への出席、平素から伊根町教育行政の推進に格別のご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げる。

本日は、今後の伊根町立小学校の運営に係り、伊根町教育委員会が策定した小学校再編計画を説明させていただく。10月初旬の2日間、小学校再編計画（案）に係る説明会を開催し、その後、パブリックコメントを募集したところ。説明会

の各会場には40名余りの方に参加いただき、パブリックコメントについても13名の方から55件のご意見等をいただき、大変ありがたい思い。それらの結果も踏まえ、教育委員会として再協議し修正を加え、とりまとめた再編計画を今回お伝えする。

本日も参加者の皆様から幅広くご意見や疑問点をお聞きしたい。本説明会が意義深いものとなるよう、忌憚のないご意見を寄せていただければ大変ありがたい。よろしくお願ひ申し上げる。

2 経過・方針報告（教育委員会事務局）

資料「伊根町立小学校再編計画」により、再編計画の内容について担当者から説明しました。

（1）計画概要

本計画は、令和7年11月末の伊根町教育委員会において内容を協議し、策定しました。策定に当たっては、令和7年10月16日から11月17日までの期間、伊根町立小学校再編計画（案）に係るパブリックコメントを実施し、広く意見を募集し、頂いたご意見を反映の上、再編計画として正式に公表しました。

（2）今後のスケジュール

令和7年12月13日・14日開催の住民説明会でのご意見を取りまとめ、再編計画とともに町長と教育委員会による総合教育会議に諮り、小学校再編についての町議会への議案提出に進むことを予定しております。

（3）計画内容

【はじめに】

伊根町立小学校再編計画の理念を説明しています。文章の中に、「誰ひとり取り残すことのない子育て及び教育と伊根町ならではの教育振興を充実させる」という文言があるとおり、伊根町の小学校教育の発展を優先の上、本計画を策定することを掲げています。

【再編計画策定に至るまでの経過】

本計画策定に至るまでの経過を記述しています。令和3年3月に策定した、伊根町教育施設の長寿命化計画により、伊根町の教育施設のマネジメントの方向性を決定しました。その後、老朽化する小学校施設の長寿命化工事を実施するため、伊根小学校と本庄小学校、それぞれの校舎と屋内運動場について耐力度調査を実施しました。その結果、両小学校で、屋内運動場の耐力度が不足し、長寿命化工事が実施できない状態であることが判明しました。これを受け、伊根町教育委員会では、小学校を2校維持する案、再編する案を検討したところです。その後、伊根保育園及び本庄保育所保護者会から、教育委員会に耐力度調査を受けた

小学校施設の今後の在り方についての要望を受け、令和5年6月、「伊根町小学校教育の在り方審議会」を設置しました。在り方審議会からは、「学校施設の改修を含む長期的な在り方に関する審議会の早期設置」と「伊根ならではという特色を生かした教育を検討する場の設置」について、十分な検討する場が確保できていないとの答申があったことから、令和6年7月、「より豊かな学びが実現できる学校施設審議会」を設置し、前述の論点について幅広く議論をいただき、令和7年7月に教育委員会に答申が提出されました。

本計画は、この施設審議会の答申を尊重した内容としています。

【学校の現状】

この項目では、学校の現状について、人口、児童数等の変化をグラフとともに説明しています。グラフは、長寿命化計画で示しているもので、年代の経過とともに人口と児童生徒数は、減少傾向にあることを示しています。ただし、令和7年度現在の児童生徒数は119名に対して、長寿命化計画を策定した令和3年の時点で予測されていた児童生徒数は90名であり、実際の児童生徒数が上回っている状況です。当町の子育て施策により、人口減少に歯止めをかけられているものと考えられます。

計画5ページの表は、現在の実児童数と、現在の未就学児の数を把握した、より詳細な児童数の推移を試算したものです。

【小学校施設の概要】

この項目では、小学校施設の概要として、施設の建築年等の情報を記載しています。

【小学校再編の方針】

小学校再編の方針として、学校施設審議会の内容を踏まえたものであることを明示しています。再編対象校は、伊根小学校と本庄小学校であることを明示し、小学校数を1校とする方針を示しています。1校とする際、校舎は新築又は長寿命化工事のうち教育効果の最大化の観点から最も適切な工法を検討します。屋内運動場については、耐力度が不足し、長寿命化工事ができないため、解体後新築します。

設置場所は、現本庄小学校の現在地とすることを明記しています。新設小学校の設置場所の選定に当たっては、学校施設審議会の答申を踏まえ、通学距離や安全性、敷地の広さ、災害時の避難拠点としての機能、交通アクセスの状況、地域施設との複合化の可能性、地域資源の活用、将来的な施設拡張性といった観点から総合的に検討し、現行の学校施設及びかつての学校教育施設、それぞれ比較検証した上で本庄小学校現在地を設置場所として決定したものです。

再編時期については、令和9年4月に1校に再編します。令和9年4月から児

童がひとつの保育施設に通うことになることから、令和9年度の一年間、小学校生活をともにした小学2年生～6年生の児童たちが、令和10年4月に入学する伊根保育園卒園児をしっかりと受け入れることができるよう小学校再編時期は、令和9年4月とすることが望ましいと考えます。

再編スケジュールとしては大変厳しい日程となることが予測されますが、学校運営に係る観点からも令和9年4月の再編が適切な時期と判断しました。新校舎完成までの間、現伊根小学校に通学し、校舎完成後、新設校に通学します。

時期について、児童がひとつの保育所に通うこととなる令和9年4月が望ましい旨の記述がありますが、これは、安心、安全な教育のため、学校施設を整備することを前提に、その上で児童のギャップをいかに軽減できるかを検討したうえでこの表現としているところです。

再編時期、再編場所については、先に実施したパブリックコメントにおいてさまざまご意見をいただいた部分です。一時的に伊根小学校に移動することとなる本庄小学校区の児童、保護者、また、新校舎完成後、本庄地区に通学することとなる児童、保護者、また、それぞれの地域にお住いの方々、当該校の教職員、それぞれ不安を十分に認識しています。そのうえで教育委員会としては、それぞれがお持ちの不安や心配ごとをひとつひとつ丁寧にくみとり、新しい学校生活を迎えることができるよう、支援し、寄り添ってまいりたいと考えているところです。また、関係各所、皆様方より、お力添えをいただきたいと考えている次第です。

【小学校再編により目指す効果】

この項目では、学校再編により目標とする事項について説明しています。はじめに伊根町総合計画等の目標達成を掲げています。これは、計画案の段階では設けていなかった項目です。パブリックコメントにおいて、本計画の目標が明確でないとのご意見があったことから、本文言において明記させていただきました。ここでは伊根町総合計画、伊根町教育大綱に掲げる目標達成が大前提としてあるということを宣言しています。

施設の安全性、機能性の向上について、安心安全な学校施設を前提に、教育機能の向上を目指すことを明記しています。また、パブリックコメントにおいて新校舎完成までの間、既存の学校施設に通う児童の安全を確保することについて言及があったことから、計画に明示することとし、計画案からその部分を追記しています。

教育効果の最大化を目指すため、多様な人間関係の構築により学び合える環境を構築することを明示し、地域コミュニティとの連携、防災拠点整備、それによる住民福祉の向上や、伊根町の魅力発信と子育て世代の流入を目指すことを、小学校再編により目指す効果として掲げています。

【小学校再編に係る全体計画】

小学校再編に係る全体計画として、学校施設の設計、工事に関する情報を示しています。現時点では、設計に2年間、工事に2年間かかり、実際に新校舎に通うことができる時期は、令和12年度に入ってからになる想定です。また、現時点での工事事業費の試算を掲載しています。

計画12ページでは、再編後の通学、放課後児童クラブについて記載しています。再編後の通学、放課後児童クラブについては、表のとおり計画しています。本庄地区コミュニティセンターでの児童クラブの運営に当たっては、既存の施設の利用方法を検討し、現在本庄小学校で放課後児童クラブに通う児童が、違和感なく過ごせるように環境を整えてまいりたいと考えています。また、新校舎完成後の児童クラブは、新校舎1か所での運営とし、現伊根小学校区の児童については、スクールバスにより伊根地区へ送り届ける対応を検討しています。

13ページでは、小学校再編準備委員会について記述しています。再編に当たっては、それぞれの学校の特徴や歴史を尊重し、これを継承した新しい学校となることが望まれます。その中で、新たな学校名称、校章、校歌や教育活動、通学、関連組織の再編等、細部にわたって検討して決めなければならない課題が多くあります。このため、各学校の学校関係者、保護者、地域住民、有識者等から広く意見を取り入れ、必要事項を検討、決定し、円滑な再編を図るため、小学校再編準備委員会を設置します。再編準備の日程イメージは、表に示しているとおりです。

【小学校再編において児童・保護者・教職員に関する配慮すべき事項】

小学校再編において児童・保護者・教職員に関する配慮すべき事項として、新しい学校生活に対する不安への対応について明記しています。パブリックコメントでは、特に、児童への心理的負担を心配する意見が見られたことから、現在も制度化している教育支援員、スクールソーシャルワーカー等の職員を有効配置し、教育相談体制を充実し、不安を和らげる対応を検討しています。この点、計画案から追記をしているところです。また、教職員についても同様に、過度の業務負担が生じないよう、教育委員会として支援をしていきます。また、放課後児童クラブについては、パブリックコメントにおいて、再編後、それぞれの児童クラブごとの特性を踏まえた運営を求める意見があったことから、学校生活同様、ギャップなく過ごせるように体制を整える旨を追記しています。

【資料】

計画においては資料として、3つの資料の表記がありますが、今回の説明会では資料の都合上、添付していません。

3 意見交換

事務局からの説明後、出席者と意見交換を行いました。以下、内容です。

【筒川地区】

- ・放課後児童クラブと通学の表の見方を教えてもらいたい。

→計画1 2ページの表は、【通学先】と【放課後児童クラブ】について、伊根小学校区、本庄小学校区の児童がどの学校、どの放課後児童クラブに通うかを示したもの。

- ・児童クラブは、利用する児童と利用しない児童がいる中、伊根小学校区の放課後児童クラブ利用児童の児童を送迎することとなれば、スクールバスを2往復する必要が生じ、二度手間ではないか。

→パブリックコメントでも回答した内容となるが、現在、放課後児童クラブは、伊根地区、本庄地区の2か所で運営している。現時点の運営においても、指導員確保が課題のため新校舎完成を期に、1か所での開所にしたいと考えている。また、同一校舎で学ぶ児童が、同一の児童クラブで支援を受けることは集団性形成の観点も含めて適正と考える。

- ・伊根児童クラブは、新施設を建設したこともあり活用した方が良いのでは。人員確保も努力いただきたい。学校と放課後児童クラブは切り分けて考えた方が良いのではないか。また、各児童クラブの特徴があつて良いのではないか。移住者の流入という観点からも本庄に小学校があるのはありがたいと思っている。

→学校と児童クラブは分けて考える必要があるが、学校が本庄地区に移り、併せて児童クラブも移ることで送迎に負担が掛かる保護者への対応も必要。現伊根放課後児童クラブまで送り届け、保護者の迎えを待つ運用を想定している。また、児童にとっても、新施設の充実した設備、環境の中でともに過ごすことがよいと考える。

- ・伊根放課後児童クラブの施設は、存続するということか。

→建物は維持し、運営上は、伊根小学校区の児童の送迎先として運営を想定しているところ。

- ・私は、本庄小学校保護者。放課後児童クラブに関して、計画では令和9年度から12年度まで、一つの学校になるまでの間、本庄小学校児童は伊根小学校に通い、学童は本庄地区コミュニティセンターとなる。前回の住民説明会の際、利用する児童クラブの選択を希望する意見があったと思うが、選択制とする案はあるか。

→通所する児童クラブは小学校区ごとに要綱において規定しているもので、今後の運用については調整中。ただし、現在でも個別の事情により、一定配慮を要する場合は、例外的に別の小学校区の児童クラブに通所することは対応しているところで、個別に教育委員会までお問合せいただきたい。

- ・子どもが2子いる場合、伊根の保育所と本庄小学校の児童クラブと、2か所に迎えに行く必要があり、時間が間に合うかが不安。放課後児童クラブの時間の延長等はないか。

→サービスの拡充については課題として認識し、対応を検討する。

- ・教育の連携を考える場合、保育所と小学校は近くに設置することも必要と考える。

→保小連携、小中連携は、教育委員会としても非常に重要視しているところ。日ごろからのふれあい機会が減ることはあっても、節目ごとの連携の機会は充実させていきたい。

- ・近隣の例をみると「○○学園」という名称があるところだが学校の名称はどのようになるのか。

→京丹後市、宮津市は小中一貫校構想の観点からそのような名称を用いている。

伊根町では小中連携教育を推進する観点から、学校の名称としては「伊根町立○○小学校」という名称を想定している。

【朝妻地区】

- ・放課後児童クラブについて、本庄に校舎完成後、伊根小学校区の児童をスクールバスで伊根地区に送迎するとあるが朝妻地区の児童も同様か。
→現時点では、伊根地区及び朝妻地区の児童は、現在伊根放課後児童クラブを運営している施設に送り届ける運用を想定している。
- ・パブリックコメントにもあったが、本庄小学校の児童が伊根小学校に通う期間が3年半。あまりにも長いという意見があるが、伊根中学校建設時はどのようにであったか。
→伊根中学校建設の際は約1年半、伊根中学校の生徒が本庄中学校の校舎に通学したもの。現在の建設業界の働き方改革の動向も踏まえ、当時と比べて工期は延長傾向にある。
- ・小学校6年間のうち3年半というのはあまりに長い。どうにか短くなる方法がないものか。
→設計段階で工期が短縮できる方向で新しい工法があれば短縮できる可能性がある。予定工期を短くすることで、入札が成立しないこともあり得るので、かえって事業期間が延びる。
- ・本庄小学校を残し、新校舎を別の場所に建てることを検討したのか。
→小学校候補地については、諸条件を検討の上、本庄小学校跡地が適地と判断したところ。
パブリックコメントではプレハブを建設してはどうかという意見もあったが、現在小学校施設として機能している伊根小学校施設を活用することが望ましいと考えている。
- ・再編後、終業式、卒業式等の際、校歌はどのようになるか。また、中学校の例になるが、技術室がないなど、施設の設備面が不足している。小学校施設の設計では、学習指導要領内容に基づいて不足ない設備を整備してほしい。
→前段、校歌、式典等についての最終的な結論は現時点ではない。なるべく早期に再編準備委員会を設置して判断を仰ぎたい。学校名称については、条例の関係もあり、早期に決定したいところ。後段、現在試算している必要面積については、必要な教室数は確保しており、必要な施設を整備することを予定している。
- ・図書館について、伊根の杜の図書施設は規模が小さい。金額をかけてでも自慢できる校舎、施設を町民のために作っていただきたい。
→現在の想定事業費においても高額な資産となる。よい施設としたい。

- ・図書館のイメージはどのようなものか。

→図書館法上の図書館の設置は困難であり、現在の本庄地区コミュニティセンターの図書室のイメージで、小学生と住民が共用して使える施設とする予定。

- ・パブリックコメントに警備について4件ほど意見があった。伊根小学校の中に観光客が入って来ることへの対策として門の設置の要望が多いが何ら対応がない。敷地出入口に門を作る気はないのか。門を作らない理由として商工会があること、公衆トイレがあることが上げられているが、七面山にトイレがある状況でトイレは必要ない。以前から意見が上がっていると思うがなぜ一切対応していないのか。

→現在のところ敷地出入口に門の設置予定はない。学校教育の支障とならない範囲でフェンスをグラウンドに設置することについて学校と協議している。効果が十分ではない部分もあるが、外国語看板の設置、フェンスの一時設置等対応は行っている。学校からは、注意喚起をして声をかければ、乱暴なことや何か危害を加えるようなことはなく、件数も減少していると報告を受けている。

- ・放課後児童クラブについて、校舎完成後は本庄で1か所開所し、伊根小学校区の児童は送迎ということだが、保護者の仕事が終わるタイミングがバラバラであるが、どのような運用となるのか。

→現在伊根放課後児童クラブを運営している施設に送り届け、到着後は保護者到着までの間、同施設において支援員が付き添って待機するもの。現時点ではおおむね18時に同施設への到着を想定しているところ。

- ・子どもの数が減少する中、中学校との複合使用を想定した施設とするのか。

→小中連携の方針のもと、施設としては、小学校施設として建設することを想定するが、余裕を持ち、拡張できるような可能性を残した校舎設備とする。

- ・伊根小学校の跡地を駐車場にする案があると聞いたが本当か。

→パブリックコメントで回答のとおり、計画はない。

- ・解体費について試算が安すぎないか。アスベスト撤去は考慮されているのか。

→解体費用については、アスベストがあるだろうという認識のもとの試算。解体工事費は、2年前、旧筒川小学校施設である筒川文化センターを解体した際の費用を基に積算しており、実勢価格に近いものであると考えている。

- ・物価高で工事費用は上昇するのではないか。

→人件費がどの程度上昇するかは予測できない部分であり、あくまで直近の試算による事業費と認識いただきたい。

- ・人数の少ない本庄小学校に、人数の多い伊根小学校が移るというのはおかしいのではないか。

→本計画に再編という名称を用いている趣旨として、大から小、小から大という考え方のもとで動いていない。教育環境としてよい場所に再編できたらよいと考えている。

- ・文化祭を見学に行ったことがあるが、同じテーマの取組をしており重複していると感じた。メリハリをつけたような場所に応じた教育、地域にあった特色の教育を進めてもらいたい。

→今年度、伊根小学校、本庄小学校ともに田植え体験等を実施している。今後も特色ある取組を行っていきたい。

- ・保護者のかかわりについて、本庄に学校が行った時に伊根、朝妻、筒川の人とどのように関われるか伊根町全体がどう関わるか、対策はあるか。

→現時点において、伊根、朝妻、本庄、筒川、各地区地域の方には教育に対してご理解ご協力をいただいているところ。

- ・本庄の保護者だけの協力にかたよらないよう教育委員会としてプランを用意してもらいたい。

【本庄地区】

- ・パブリックコメントにおいて住民周知ができていないという意見があったが、私は保護者として、教育委員から手厚い説明があったと感じている。計画どおり令和12年度の新校舎完成を望むが、今後さらなる説明会等は開催されるのか。また、計画について、経過にあった体育館の長寿命化工事ができないという状態がどのようなものか説明いただきたい。

→前段、説明会は、現時点で今回の説明会のみの計画。今後、説明会の内容を含めた再編計画を総合教育会議に諮ることとなる。後段、長寿命化工事というものは、施設マネジメントとして、同一施設を約80年間使うという考えがある。建築後40年経過したRC構造の建物は、耐力度調査によって今後40年間継続して使えるかどうか判定する。その判定の結果により長寿命化工事を施して40年間活用することが制度趣旨。各小学校の屋内運動場の耐力度調査を実施し、今後40年間続けて使うには現在の耐力度では不足する判定があった。ただし、これをもってすぐにこの建物が危険な建物であるということではない。耐震基準という基準もあり、これについては数値上問題がない。施設が老朽化していること自体は間違いない中、今回の計画で再編の上で、本庄小学校現在地に新しく建て直すこととして計画している。

- ・私は本庄小学校の保護者。パブリックコメントでも意見し、同様の意見もあったが、保護者としては、令和9年度から令和12年度まで伊根小学校に通うこととなる3年間が長いと感じる。仮校舎の設置等、新案があると期待したがそれは無かった。検討の経過が知りたい。また、令和9年度までに教育課程が考えられるのか、環境が変わることによる子どもへの負担が心配。

→グラウンド含め広範に現在の本庄小学校敷地を新校舎とする中、仮校舎等の設置は予定していない。仮校舎と伊根小学校を比較し、小学校施設として整備されている伊根小学校に通学することが環境面で優位と考える。設置場所については、教育財産を比較し、災害要因も総合的に検証した結果、本庄小学校が最適と判断したもの。伊根小学校への通学する期間は、少しでも不安を和らげられるよう教育支援員、スクールソーシャルワーカー等の有効配置で対応を予定する。教育課程の編成については、なるべく早期に再編準備委員会を設置し、特に学校行事や総合的な学習等、特色ある学習について検討を進めたい。

- ・①放課後児童クラブに通う伊根小学校区の児童はスクールバスで伊根地区に送迎するとあるが、具体的な場所は決まっているか。
- ②教育課程について、複式から単学級への移行等、不安がある。総合的な学習についても学校で特色があり、それがどうなるか。また、教員の負担軽減対策について教育委員会としての考えを伺う。

③再編準備委員会は具体的なスタートの時期と取り掛かる内容について、現時点での想定を伺う。

→①現在、伊根放課後児童クラブを開所している施設まで送迎し、到着時に保護者が迎えに来ていない児童については、保護者が迎えに来るまでの間、同施設内で支援員が付き添う流れを想定している。

→②不安感については、現在、小学校同士の連携について取り組んでおり、修学旅行、田植え体験を一緒に行う中、両校の児童が楽しく馴染んできていると聞いている。子どもの柔軟さに期待したい。子ども自身、保護者も不安はあってもいざ一緒に触れ合うことで幅が広がるのではないかと期待している。また、総合的な学習の時間については、再編計画とは別途に、各小学校でそれぞれどのように進めていくか、現時点でも話し合いを継続している。教員の負担については、再編にあたって、京都府教育委員会への加配教員の要求及び町職員を確保したいと考えている。

→③再編準備委員会は、この後、総合教育会議に諮り協議し、条例案を議会に提出、議決を経た後、速やかに組織を設置する。具体的な内容については、手続きの途中であるので差し控えるが、現時点でも運営の構想は持っている。

- ・学校の設置場所の選定地について、他の候補はどこが検討に上がったのか。また、質疑を聞いているとゴールが決まっていてそこに合わせるような回答があると感じる。住民への周知期間が短く、それで進めるのはよいのかと感じる。

→場所は伊根小学校、旧朝妻小学校、本庄小学校、旧本庄中学校の4か所。用地買収の必要性から、町有地以外は検討していない。

- ・用地買収は議論のテーブルになかったのか。

→議論が全くなかったわけではないが、学校施設の老朽化が問題となる状況で、用地買収、土地造成に掛かる期間を考慮し、困難と判断している。

- ・旧朝妻小学校や旧本庄中学校の土地を活用する案はないのか。

→検討し、総合的に判断したものが今回の再編計画であるもの。ゴールが決まっているのではないかという点については、この再編計画を提示する段階においては、ゴールとなる地点は見据えている。

- ・教育委員会の描くゴールがこの計画であると思うが、本庄小学校は素晴らしい学校だと感じている。今が伊根町全体の教育を考える時期であると理解しているが、自分の子どものことを考えると、変わらず本庄小学校に通わせたいという思いがある。技術的なことはわからないが、現在のグラウンドの場所に校舎を作り、現在の校舎に通い続けることはどうしてもできないか。一番には、未来を見

据えていい学校、いい教育、いい町を作りたいと思っている。

→グラウンドへの校舎建設については、河川との位置関係により、現在の校舎位置よりも浸水可能性が高く、校舎の位置として適当か検討が必要。また、旧本庄中学校へのプレハブ校舎の設置は、伊根小学校施設と環境を比較したとき、普通教室、特別教室、特別支援教室と整備された学び舎が適切と判断した。児童が不安で押しつぶされることがあつてはならないので、教育委員会として支援するが、再編により周りの保護者、先生とのつながり、子ども同士のつながりを通じて個人が成長していくという捉え方をしたい。

・私は伊根小学校の保護者。再編の不安は本庄小学校の保護者と同じで、伊根地区からバスで通学するという点は同じくらい不安がある。小人数が大人数の学校に行くことについて不安が強いことはわかるが、我が子は、一緒になることを認識し、楽しみにしている。ゴールが見えて、そこに進んでいく中、決まっていくことについて親も子どもに寄り添ってあげる必要があると感じている。同じ方向を見て何かあったときは知恵を出し合って解決していくという流れで、このまま進んでほしいと思う。

→先の回答でゴールという表現を用いたが、ゴールは見ているが、まだ決まったものではない。前向いていきたいという意見はありがたいが、本計画が決定事項でないことは留意いただきたい。

【伊根地区】

- ・前回の住民説明会では、教育長から児童生徒が減少すれば小中一貫も検討に上がるという回答があったが、具体的に何人くらいになったら検討するのか。
→具体的な数値は想定していない。
- ・周辺自治体においては、1クラスになると学校が統合になった例がある。伊根町においては中学生が10人になっても中学校を維持していくという見解か。
→質問では中学校の例だが、小学校で言えば、本庄小学校は2複式、伊根小学校も1複式であった。十数年前、当時の経過を十全に把握しているわけではないが、伊根町立小中学校の統合の議論となった際、伊根中学校、本庄中学校、伊根小学校、本庄小学校があった。当時、小学校については、少人数であっても複式であっても丁寧な指導を望む声から2つの小学校を維持するという町の方針となつたものと考えている。それが現在の枠組みになっていると承知している。現在において、教育委員会として2小学校長寿命化の施設マネジメントについて検討する中、保育所の保護者の方から一度施設の在り方を見直してほしいという要望書を受ける中で、各審議会や住民説明会等を経て再編計画において一つの小学校にすることとした。学校の児童数が減少する、複式だから一緒にしなくてはという考えではない。
- ・今後人口が減少していく中で、今回21億円の支出ということだが、宮津市では庁舎の移転が15億円で、将来の財政負担の観点から見直ししたとの報道があった。京丹後市では教育施設、地域施設建設が50億円の計画で、これも財政的な問題で議会が通らなかつたと聞いている。伊根町において、今回21億かけて建て替えというのは財政的に大丈夫なのか。
→パブリックコメントにおいても同様の質問があり、回答させていただいたところ。庁舎の例と教育施設では、財政措置の観点から実際の負担額は異なる。具体的に国庫補助でいうと、補助対象事業費のおおむね5割程度の事業費の補助金があり、また地方債、いわゆる借金であるが、その返済額について後年、地方交付税として交付があり、一概に比較できるものではない部分があるもの。また、財政的な部分は、教育委員会として町長部局と調整の上で、議会の判断を仰ぐこととなる。町全体の予算となると、単年度の負担は一定はあると考える。
- ・伊根町役場には、舟屋を核にして特色あるまちづくりをというポスターがあるが、伊根地区の小学生が本庄地区に通学しながら、どのように舟屋を核とした学びができると判断したのか。
→複数の核のうちの一つだと考えている。伊根町は舟屋だけ、そういうものではないのという認識。伊根全域にお住いの方がさまざまな営みをされており、そこ

で子どもたちがいろいろな体験し、学ぶことが重要。舟屋を一つの核とした取組というのではなく、小学校だけに限らず、中学校も動きをとっている。

- 答申において小学校の位置として本庄地区にするという文言は急に出てきたようだ。私は本庄小学校をなくすべきではないと思っており、本庄小学校をなくすかどうかは、本庄地区の方々の意見を聞くところと思うが、今回伊根地区から小学校がなくなることにおいて根拠となったのが施設審議会の答申だけであったと思う。なぜ伊根地区の住民が伊根地区から小学校がなくなるということに対して同意したと判断したのか。

→今回の説明会も含めて丁寧に説明させていただいている。教育委員会としてこれまでの審議会の経緯、説明会、意見公募の内容を取りまとめ、再編計画を町長と協議していきたい。

- 人数の多い学校が人数の少ない学校に行くというのは、対象地区の住民の全体の意見を取るべきだと考える。パブリックコメントではたった13名の回答であった。これで広く意見を聞いたというのは乱暴だと思う。また、審議会委員にも話を聞いたが、組織の意見を集計するような指導は教育委員会からなかった。前回の説明会のとおり組織の問題であって関係ないという返答で変わらないか。
→前段、どこまでで合意が取れたと判断するのか、紙媒体でアンケートをとればよいのか。教育委員会において情報発信は尽くしていると考えている。後段、前回の説明会において組織の責任だと説明したわけではない。さまざまな組織があり、それぞれ組織から代表者を選ぶ。その代表者が、100人の組織の100人すべての思いを全部掌握しなければ代表会議に出れないものではないと考える。審議会では、各委員、それがアンケート、中間報告の方式など議論を交わされ、取り組んできた。

- アンケートでは本庄の小学校が良いかとは聞いていない。また、高齢者に配慮するなら紙ベースとするべきだと思っている。高齢者を対象にした伊根地区的介護の周知は紙でしている。それはいねばん見ていない高齢者が多いということを知っているから。伊根地区的高齢者はこのことを見ていない。それで同意を得ましたというのをおかしい。

- 私は審議会委員をしていた者。教育委員会から各組織の意見は出してくださいと説明があった。パブリックコメントで、委員が個人で判断しているかのような意見があったが、委員はそのような気概でやっていない。私は朝妻小学校がなくなるときに文句をつけた経験がある。母校がなくなることは、子どもたちのことを思いながらも、自分自身、寂しさがあった。住民には生まれ育った地区への思いがあるもの。旧村が合併して一つの町となったが、今でも旧村単位で考える傾

向がある。今回、一つの小学校となることが、伊根町が一つになるいいチャンスかと思う。

- ・災害時、伊根と本庄どちらがフォローしやすいかということは検討したか。また、再編の話は10月頃からしか聞いていないが、目標ありきの説明会に思えて残念。もう少し意見を聞いてほしい。全くダメとは言わないが進め方が乱暴でないか。

→伊根町における防災は、地区地区ではなく町全体に影響が出ることを想定して災害対策を考えている。ただし、災害対応含め、再編計画に課題がないとは考えていない。審議会の周知も含めて課題はあったのだろうと考える。ただし、学校施設の築年数等考えた時、現に直面する課題について、どうするか。やり方が駄目だから全て止めるというのはどうなのか。

- ・私は伊根中学校が建て替わった際、古い校舎と新しい校舎どちらも経験した者。校舎、体育館が新しく大きくなり、すごい建物ができたと感じた。将来的に伊根小学校と一つにするために大きな校舎にしたと思っていた。再編計画を読み、中学校と小学校が合併するのではないかと知り驚いた。小中一貫であれば9年間兄弟姉妹が一緒に通うことができ、小学校中学校で伊根と本庄で分かれるより、よいのではないかと思う。小学生に対して、どこの小学校に行きたいかアンケートはとったのか。

→小中学生を対象としたアンケートは、施設審議会において実施し、結果もとりまとめて再編計画の別添資料として公開しているところ。子どもたちにとったアンケートの趣旨は賛成、反対という具体的な項目でなく、あえて、今の教育で困ること、大事にしてほしいことなどを問う形式としてとられたもの。また、中学校校舎の施設規模については、小中一貫校として小学生が入れる余力はないのが現実。

- ・再編計画9ページの伊根町教育の魅力発信と子育て世代の流入という部分についてよい表現であると感じた。校舎を新しくし、なおかつ先進的な教育に取り組み、人口減少に歯止めをかけ、ええ町にするということを約束にしていただきたい。

→約束という言葉を軽々には使えないが、計画に掲げる以上、この方向で動くということは間違いない。教育委員会だけでなく、各組織、人々の力を借りながら取り組みたい。

- ・説明会の日程発表が近々であることに違和感がある。また、保護者向けの説明会がないが、意見も何も聞かずに進んで大丈夫なのか。

→日程については、パブリックコメント後、計画案を修正し、教育委員会にて再

度最終決定をした後に最速のタイミングで周知している。保護者への説明会の周知については、小学校及び保育所保護者に個別に案内している。

- ・伊根小学校を解体する際、工事車両で渋滞を起こすことは考えているのか。また、伊根小学校跡地について、パブリックメントで書かれていたが、本当に活用は決まっていないのか。教育委員会は知らず、他部署は知っているということはないのか。

→令和7年3月議会において、町長は、何も決まっていないと答弁している。今、小学校に通う児童がいる中、校舎解体、跡地活用を議論するものでないと考えている。

- ・保護者に再編計画について賛成反対のアンケートは取っているのか。

→アンケートはとっていない。

- ・意見であり、回答いただきたいわけではないが、保護者の一意見として、施設の長寿命化の観点から早く建て替えたほうがいい、早く事業に取り組んでほしいというのが一般的な意見。内容を住民に伝えることは、難しいことだが、どこかで線引きをしないといけない部分。全員に全て理解していただくことは困難。保護者としては、どこかで折り合いをつけて取り組んでほしい。児童の安全を守りたいというのがスタート地点。優先順位をつけて早く取り組んでほしい。

- ・町のにぎわいがあるところに小中施設をなるべく近く集中しておくことで子育ての利便性が上がるというガイドラインがある。なるべく近くに置くことが子育てにおいてはよいというのが一般論であるが、あえて離れたところに校舎建て伊根町らしさを体現したというものが成功する具体的な根拠を知りたい。

→現在、事実として伊根町においては小学校のない朝妻に移住者が増えている状況がある。小中学校の施設が離れていても小中連携教育は提供できる。本庄地区に小学校があることにより伊根町全体で子どもたちの学びの資源を有効活用できるものと考える。伊根地区も然り、本庄地区にも地域との関わりにおいてこれから児童が吸収すべきものがあるという思いがあり、本計画としている。

- ・子どもたちの反応について、意見として伝える。私が子どもに学校が移動することについて聞いたら、聞いた全員が年数を数えてみて「あ、私セーフ」と言った。これは、伊根地区が本庄地区に行ったら伊根地区の児童はそう思うし、本庄地区の児童が伊根地区に来たら本庄地区の児童もそう思う。民主主義で、そう思うのが大勢か少數かどちらが良いか。また、意見を言うと、教育委員会として本庄地区の児童が3年間小学校に通うことについて、通学の負担とか保護者の負

担について本庄地区にて負担が大変あることは認識しているというふうに説明があった。それを言う場所は伊根地区ではないのか。

→保護者の負担は、伊根地区、本庄地区に限らず、再編計画の中、説明の中で伝えている。少しでもギャップとか保護者の負担軽減、さらに教職員の負担軽減が掛からないように配慮していく計画で進めていきたいと申し上げている。

- ・説明不足と考えている。説明が必要。
- ・保護者には保護者だけの説明会があってもよいのではないか。
- ・保育所保護者会としては、アンケートを実施し、直接意見交換もした。保護者としては自分の子どものことだから真剣に考えている。

→前回説明会においても保育所保護者は多数参加いただいたところ。

- ・保護者の意見を尊重するのは理解できるが、大きな事業を実施するにあたっては当事者だけでなく、他の意見もくみとるべき。子育ては15年ほどで終わる。それから先、伊根町全体的なことも考えて意見を求めるべきと思う。
- ・伊根町出身というと、舟屋のところだとよく言われる。本庄に行くことで、舟屋を説明できなくなるのではないかと危惧している。伊根中学校を使うという計画にできないか。

→本庄に校舎が移っても、伊根町全体の視点を持つ小学校教育は必要と考えている。小学校、中学校、それぞれの教育内容を整理し、伊根地区のことも知り、本庄地区のことも知り、朝妻、筒川のことも知ることが伊根町における小学校教育であると認識している。

- ・保護者の意見として、令和9年4月から本庄小学校の児童が伊根小学校の方に通うこととなるが、伊根小学校は観光客が多く、子どもを通わせるのに不安があるというパブリックコメントも目にした。私も現状子どもが伊根小学校に通っているが、日常的に観光客が入ってきたり、写真を撮ったりしている。計画に基づいて、令和9年4月から再編成ということであればそれについて対策いただきたい。教育の魅力発信と子育て世代の流入という点では、小学校再編を機に探究学習に力を入れて、魅力のあるまちづくりを目指していっていただきたい。
- 伊根小学校からは、看板設置以降は校庭に侵入することは少なくなったと聞いている。また、多言語看板の設置も予定しており、注意喚起の対応は続けていく。また、先の説明会場でも同様の質問があったところ、現在、フェンスをグラウン

ドに設置することについて学校と協議している。

- ・今年の運動会でも観光客が入ってきて、写真と一緒に保護者と横並びで撮っていたこともあった。何回も注意するが、止めない人が多い。安全面も含めて物理的に入れないように配慮していただきたい。また、学校の玄関も施錠されていないので不安がある。
- ・先の説明会で門の設置はないと回答があった。完全に隔離するような対策というのはこれからやっていく方針はあるのか。門の設置は商工会、公衆トイレがあるからできないというが、小学校施設だけにすればよいのではないか。
→先の説明会での回答のとおり、仮の話だが、フェンスを施工し、伊根放課後児童クラブと学校の間に、門を設置するとなればそこに設置する。公衆トイレ付近に門を設置する予定はない。
- ・小学校前に警備員を配置できないのか。また、徒歩での通学にも危険があるので、伊根地区の児童についてもバスで送迎したらよい。

→新校舎設計時に安全対策は検討する。

- ・伊根小学校付近に防犯カメラは設置しないのか。また新しい校舎に防犯カメラをつけないのか。
→安全対策については、不安に思う方が多いと感じている一方、児童や器物に具体的な被害が生じていない現状、安全対策をどこまで提案するべきかと感じている。子どもの安全が重要であるという点は間違いない、そこは誤解のないよう留意いただきたい。

4 閉会

教育次長から本説明会の質疑応答等の内容は町HPで公開する旨を説明し、閉会。